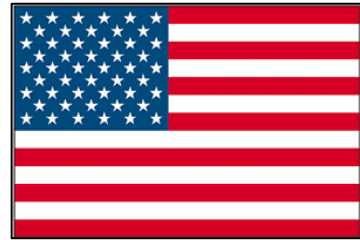
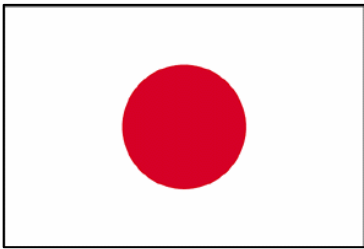


平成20年度 瑞穂町青少年国際派遣事業 報告書



MIZUHO JAPAN



CITY OF MORGAN HILL

瑞穂町教育委員会
Mizuho Education Board

目 次

1	派遣期間	1
2	派遣団	1
3	派遣場所	1
4	派遣の目的	1
5	派遣の成果	2
	(1) モーガンヒル市のホストファミリーや中学生の交流、 姉妹都市委員会との交流	
	(2) モーガンヒル市施設見学、グーグル社見学等	
	(3) 歓迎レセプションでの交流	
6	市内施設見学	3
	(1) モーガンヒル市役所	3
	(2) 100周年記念レクリエーションセンター	3
	(3) コミュニティー文化センター	3
	(4) モーガンヒル市駅	3
	(5) サッカー場	4
	(6) アクアティクスセンター(サンタクララ郡施設)	4
	(7) モーガンヒル市記念館	4
	(8) チックタック公園での講習会	5
	(9) アンダーソンレイク散策	5

7	企業見学	6
8	学校見学	6
9	日系2世との交流	7
10	現地研修行程	8
11	研修と報告会	11
12	派遣団員報告書【石坂啓介】	16
	【坂部早希】	19
	【中垣佳奈】	21
	【中野朝日】	24
	【中川知美】	27
	【西村佳恵】	30
14	終わりに	33
15	参考資料	34

1 派遣期間

平成20年8月2日(土)～8月12日(月)

2 派遣団

瑞穂町教育委員会 教育長	岩本 隆
瑞穂町教育委員会 教育部 社会教育課長	横沢 真
瑞穂町立瑞穂第二中学校 教諭 (引率)	神原 亜弥
学生	石坂 啓介
中学3年生	坂部 早希
中学3年生	中垣 佳奈
中学3年生	中川 知美
中学2年生	中野 朝日
中学3年生	西村 佳恵

3 派遣場所

アメリカ合衆国カリフォルニア州モーガンヒル市(瑞穂町姉妹都市)

4 派遣の目的

中学生を派遣することで、モーガンヒル市民との交流を深め、国際感覚を養うとともに、社会性や自立性、感性の向上を通して瑞穂町・日本のよさを認識すること。また、ホームステイを通じて、アメリカと日本の文化や習慣の違いを学ぶとともに、コミュニケーション能力の向上を目指します。



これから出発です(役場駐車場にて)



アメリカに到着です

5 派遣の成果

(1) モーガンヒル市のホストファミリーや中学生との交流、姉妹都市委員会との交流

ホストファミリー、モーガンヒル市姉妹都市委員会や日系2世の方々との交流をとおり、若い世代が将来にわたり両市町間の友情を引き継いでいく礎となりました。派遣された6名が、10日間で多くの体験をし、同年代の人たちとの意見交換、また、アメリカ移民の方々との話し合い、アメリカと日本の制度の違い等多くのことを学びました。

(2) モーガンヒル市施設見学、グーグル社見学等

瑞穂町や日本との違い、世界のトップクラスの企業を身近にして多くのことを学ぶことができました。

グーグル社社員は、勤務時間の20%を自由に使ってよいこととなっています。

言い換えれば、その自由時間をいかに有効に使うかが重要で、自己管理能力が問われることとなっています。



(3) 歓迎レセプションでの交流

テイト市長、ニシノ教育長、姉妹都市委員会の方々、多くのボランティアの方々から盛大な歓迎を受け、瑞穂音頭や歌の披露をしました。



歓迎レセプションにて



瑞穂音頭や歌の発表

6 市内施設見学

(1) モーガンヒル市役所

市長から説明を聞き、プレゼントをいただきました。

(2) 100周年記念レクリエーションセンター

全市民対象に広く多様なサービスを提供する施設です。フィットネスセンター、エアロビクスやヨガ等の練習場、子どもからシニアまでのトレーニングジム、屋内プール、子ども預かり所を備え、多様な健康増進事業が行われています。



レクリエーションセンター入口にて

(3) コミュニティー文化センター

市民活動の拠点として機能しており、多目的ホールをはじめ、多くのホールを有しています。屋外には野外音楽ホールがあり、近隣市の住民も広く利用しています。

(4) モーガンヒル市駅

モーガンヒル市の名前の由来の説明を受けました。

モーガンヒルという市の名称は、1884年、この地に家建てたサンフランシスコの富豪、ハイラム・モーガンヒルさんの名をとって名付けられました。



ハイラム・モーガンヒル氏



モーガンヒル市の姉妹都市名

モーガンヒル市は瑞穂町の他にメキシコのサンマルティン市、イタリアのサンカッシーノ市、アイルランドのヘッドフォード市とも姉妹都市を結んでいます。

(5) サッカー場



カリフォルニア州から多くのチームが集まる大会が開催されます

(6) アクアティクスセンター（サンタクララ郡施設）

レクリエーションプール、ウォータースライダーなど5種類の目的別プールを備えています。年齢やレベルに応じたスイミングスクールやフィットネス講習も行われています。温水プールもあり1年を通して利用されています。



アクアティクスセンターにて

(7) モーガンヒル市記念館

ハイラム・モーガンヒル氏が妻に送った家で、現在博物館として利用されています。

記念館前にて
ホストファミリーと



(8) チックタック公園での講習会

インディアンの生活習慣を勉強したり、貝がらを使ったブローチ作りを行いました。



キャンプ場（講習会風景）

(9) アンダーソンレイク散策

モーガンヒル市は夏場に毎年のように水不足が起こるため、人工の湖を作り対応しています。モーガンヒル市民にとっては、とても大切なところ です。



アンダーソンレイク（人工湖）



ロセンディン公園でハイキング

7 企業見学

グーグル社を見学しました。世界トップクラスの企業であり、みんな期待感一杯で視察に臨みました。残念ながら施設内の写真は許可されませんでしたが大変貴重な体験ができました。



グーグル社前にて

8 学校見学

地元の高校・中学を見学し、同年代の青少年との交流を深めました。



ダンスサークルのメンバーとの写真



パソコンルーム

9 日系2世との交流

20世紀初めにアメリカへ移民した日系の方たちが味わった苦難の歴史を知り、勉強になりました。



今回の派遣事業にご尽力いただいた
シロヤマさん（写真左側）とマユミさん



日系の方々（勉強会より）

10 現地研修行程

月日(曜日)	時間	スケジュール	備考
平成20年 8月2日(土)	8時30分 11時30分 【日本時間】 16時05分	派遣団員 町民会館前 出発 成田空港 到着 成田空港 出発	・ワゴン車2台にて移動 ・UA838便にて
平成20年 8月2日(土)	9時18分 11時00分 【以下米国時間】 12時15分	サンフランシスコ空港 到着 サンフランシスコ空港 出発 モーガンヒル市 到着 各派遣団員ホストファミリー宅 へ移動、自由行動	・シロヤマ氏出迎え ・ミニバスとシロヤマ氏の車 にて移動
平成20年 8月3日(日)	午前中 15時00分 18時30分	ホストファミリーと自由行動 歓迎レセプション ボウリング	・仏教徒コミュニティーセン ターにて ・歓迎行事として和太鼓の演 奏がありました。 ・瑞穂音頭・童謡を紹介しま した。
平成20年 8月4日(月)	9時45分 11時00分 12時30分 19時00分	コミュニティセンターに集合 ローリングキャンプ サンタクルーズ、 ボードウォーク モーガンヒル市到着、解散	・パーク内自由行動 ・ビーチ散策
平成20年 8月5日(火)	9時00分 13時00分	市内施設見学 チックタック公園	・市役所 ・レクリエーションセンター ・コミュニティ文化センター ・アウトドアスポーツセンター ・アクアティックセンター ・貝殻のプレスレット作り ・公園内ツアー

平成20年 8月5日(火)	15時30分 17時00分	アンダーソンレイク 解散後、各ホストファミリー宅へ	・近くの丘を散策
平成20年 8月6日(水)	8時45分 10時00分 12時30分 17時00分	スターバックス前集合 グーグル社 グレートモール モーガンヒル市到着、解散	・企業内ツアー ・ショッピング
平成20年 8月7日(木)	8時45分 10時30分 12時00分 13時00分 15時30分 16時30分 18時30分 22時00分	コミュニティーセンター集合 ゴールデンゲートブリッジ散策 ロンバートストリート Pier39 ケーブルカー乗車 ショッピングセンター ギラデリチョコレート ファクトリー モーガンヒル市到着、解散	・ショッピング
平成20年 8月8日(金)	9時45分 10時00分 11時00分 12時30分 13時30分 14時00分 15時30分	コミュニティーセンター集合 ソプラト高校見学 マーティンマーフィミドルスクール見学 市図書館見学 仏教徒コミュニティーセンター到着 日系アメリカ人の歴史授業 プールパーティー	・在校生ダンスクラブの練習見学をしました ・シロヤマ氏による授業 ・日系2世3世の方からも貴重なお話を伺いました。
平成20年 8月9日(土)	8時45分 10時00分 15時00分 16時30分 19時30分	コミュニティーセンター集合 モンレーベイ水族館 ストリートショッピング サンセットビーチ モーガンヒル市到着、解散	

平成20年 8月10日(日)	午前中 12時30分 15時00分	自由行動 サヨナラレセプション ホストファミリーと自由行動	<ul style="list-style-type: none"> ・メキシカン料理店にて ・スライドショーの上映
平成20年 8月11日(月)	6時45分 7時00分 8時15分 12時15分	コミュニティーセンター集合 モーガンヒル市出発 サンフランシスコ空港 到着 サンフランシスコ空港 出発	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣団員にDVDが贈られました ・ミニバスとシロヤマ氏の車にて移動 ・UA837便にて
平成20年 8月12日(火) 【日本時間】	14時40分 15時30分 19時00分	成田空港 到着 成田空港 出発 町民会館到着、解散	<ul style="list-style-type: none"> ・ワゴン車2台にて移動

1 1 研修と報告会

今回の中学生派遣事業では下記内容のとおり事前研修6回・壮行会・現地研修(P8～P10参照)・事後研修5回・写真展・報告会を実施しました。

日 時	場 所	内 容	備 考
平成20年 6月14日(土)	スカイホール 2階会議室	派遣事業概要説明 渡航手続きについて 英会話研修 ほか	事前研修
平成20年 7月 5日(土)	スカイホール 2階会議室	生活マナーについて 公式レセプション打合せ 英会話研修 ほか	事前研修
平成20年 7月 7日(月)	ビューパーク 競技場会議室	姉妹都市委員等による 英会話研修	事前研修
平成20年 7月 8日(火)	ビューパーク 競技場会議室	姉妹都市委員等による 英会話研修	事前研修
平成20年 7月19日(土)	スカイホール 2階会議室	姉妹都市委員による ホームステイ体験談 手土産作成 ほか	事前研修
平成20年 7月26日(土)	スカイホール 2階会議室ほか	公式レセプション打合せ 英会話研修 最終打合せ ほか	事前研修
平成20年 7月30日(水)	役場2階会議室	町長・副町長からの激励 公式訪問先への町長メッセージ 寄託	
平成20年 8月16日(土)	スカイホール 2階会議室	現地研修『報告・反省等』の 発表 【P13～P15参照】	事後研修
平成20年 9月23日 (火・祝)	スカイホール 2階会議室	報告書作成について 今後の予定について	事後研修

平成20年 10月18日(土)	スカイホール内	瑞穂町青少年国際派遣事業写真 展の準備	事後研修
平成20年 10月19日(日)	スカイホール ほか	瑞穂町青少年国際派遣事業写真 展の開催	瑞穂町こどもフェ スティバル内にて 開催
平成20年 10月25日(土)	スカイホール 大ホール	報告会リハーサル	事後研修
平成20年 11月 2日(日)	スカイホール 大ホール	報告会リハーサル	事後研修
平成20年 11月 8日(土)	スカイホール 大ホール	報告会	青少年の主張意見 発表会内にて開催



姉妹都市委員による事前研修会



英会話研修風景



瑞穂音頭の練習



手土産作成研修

事後研修『報告・反省』 平成20年8月16日(土)より

派遣研修『報告・反省等』を発表してもらいました。

西村： とてもフレンドリーで初めて会ったにもかかわらずたくさん話しかけてくれました。初めはあまりついていけず、質問されてもあいまいな感じで答えていました。少しでも話すととても喜んでくれ、すぐに慣れて会話が弾むようになりました。

ホームステイの家は皆が協力をして食事を作ったり、買い物をしたり、家事をしていました。(お父さんお母さんが分担をしていました)自分もホームステイ先はホテルではないことを頭の隅におき、家族の一員として過ごすように、食事の手伝いをするなどを心がけて生活をしました。

家族みんなと一緒に過ごす時間が多くあると感じました。「イエス」「ノー」をはっきりと伝えないといけないことがわかりました。

現地の人たちはみんなボランティア。自分たちのこと(派遣中学生)のことを第一に考えてくれていたと感じました。準備から帰る日までとても大変であったと思います。充実した10日間を過ごすことができました。ボランティアはする人もされる人も幸せになるのだと思いました。来年は自分がモーガンヒル市から迎える側となります。

今回してくださったようなボランティアをして、奉仕の精神をつくりあげていきたいです。

中野： ホームステイ先の家族は「お手伝いしましょうか」を言わないと全部(食事・家事・洗濯)してくれました。いろいろ気を使ってくれて退屈することはなかったが、疲れた顔をすると、すぐに声をかけてくれました。そのことにだんだん疲れてきてしまい、一人でいる時間がほしかったです。モーガンヒル市は乾季ということもあってかシャワーの時間が制限されていた「3分/2人」のが辛かったです。一番印象に残って

いるのはグーグル社への企業見学でした。働く時間の20%は好きなことに使えるなどを知りました。

ホームステイ先では自らすすんで食器の片付け等に取り組めたので、学校生活においても積極的になにかをしようと思います。そして今回のホームステイ体験を少しでも多くの人に伝えたいです。

中川： 二年生一人でいろいろと大変だったところもあり、次回以降は同学年の人を入れてあげてほしいと思います。【今回二年生は一人でした。】

モーガンヒル市は瑞穂町と比べて自然が多く山がたくさんありました。しかし、山にはあまり木がなくモーガンヒルのマークのようでした。

モーガンヒル市の人たちはみんな親しみやすくとてもよい人ばかりでした。ホストファミリーの人たちも本当の家族のように接してくれました。

挑戦したが英語が通じませんでした。

さよならパーティーでは英語で話してみました。

中垣： 正直派遣研修前は不安な気持ちがありました。

サンフランシスコ空港でホストマザーとトーリーが笑顔で迎えてくれ不安も飛んでいきました。朝食時のホットケーキは甘めでした。夕食が午後5時と早く、寝るまでの間時間があり、娘のトーリーは折紙等に夢中になり、教えたりしました。

途中一日だけキンバリー家（中野さん中川さん）に宿泊することになり楽しいひと時を過ごしました。

坂部： 実際にアメリカ人とふれあい日本人との違いを感じました。もっと何事にも積極的にやっつけていかないと感じました。

今度モーガンヒルの方が来たときには倍にして返してあげないと、と感じました。この気持ちを必ず行動に移したいです。

英語が好きになりました。

中学1年生の英語は完璧にしたほうがよいと感じました。

石坂： 先入観で靴をはいたままの生活と思っていたが、最近靴を脱いで生活する家庭も増えてきているそうです。家に車2台保有している家庭が多いと感じました。一人でうろうろしている中学生がいなく、家族と一緒に行動していました。中学校高校の見学の際には、アメリカの社会は経験が最も必要であり、夢を実現させるような教育制度があると感じました。学生と話す機会がもっとほしかったです。

アメリカに行って日本のような学歴社会の国はもしもということがあったときのために勉強をして、基礎を固めることが大切だと思いました。

12 派遣団員 報告書

石坂啓介

「第2の故郷と帰るべき場所」

アメリカのモーガンヒル市から帰国してからかなりの月日が流れました。僕はモーガンヒルのあの雲ひとつなく青く澄んだ広い空を、今でもはっきりと思い出すことができます。

瑞穂町では姉妹都市モーガンヒル市への派遣団員を募集していることを僕は母と姉の会話から知りました。「ねえ見て。瑞穂町で国際派遣事業の派遣団員を募集しているよ。」「えー、私行きたい。」「無理よ。中学生が対象って書いてあるもの。」「ふたりの会話を聞いて、僕はすぐに応募しようと心に決めました。

僕には将来宇宙開発に携わる仕事に就きたいという夢があります。そのためには苦手な数学や理科の勉強にもっと真剣に取り組まなくてはなりません。でも、思うだけでなかなか実行できないでいました。これから先、自分はどうかしたらいいのかなあと思い悩んでいました。モーガンヒル市に住む同じ年の中学生たちは今どんなことを考えて、どんな夢を持っているのだろうか。住んでいる国や言葉や文化が違っていると、考え方も違うものなのか知りたくなりました。そして、瑞穂町に似ているというモーガンヒル市がどんな所なのか、実際に自分の目で見てみたいと思いました。

いざ、合格してみると、急に不安になってしまいました。僕は気持ちの弱いところがあって、緊張したり、大きな行事の前にはお腹をこわすくせがありました。でも、思い切ってアメリカに行くことをきっかけに、強い自分になろうと秘かに心に誓い出発しました。

「ゴトン」飛行機がサンフランシスコ空港に着陸したとき、その瞬間を楽しみにしていたのに僕は寝ていて気がつきませんでした。そこから、車に乗り約1時間でモーガンヒル市に到着しました。「ケイスケ」車から降りてすぐに誰かに名前を呼ばれました。振り返るとそこに日本の女の子が立っていました。そして、いきなりハグされて、非常に戸惑いました。その人は僕がお世話になるホームステイ先のマミーでした。そばには、デイビッド(15歳)とロイス(9歳)もいました。1日目はそれぞれの家族にあいさつを済ませて、集合写真を撮って、早々にステイ先の家へ向かいました。僕は英語が得

意ではないのでドキドキしていましたが、日本語が通じるので一気に緊張が解けました。その晩は、プールに入ったりゲームをしたりして楽しく過ごしました。

次の日は歓迎レセプションがありました。僕が最も憂鬱(ゆううつ)だった瑞穂音頭を踊る日でした。瑞穂のハッピーを着るだけでも恥ずかしかったのです。でも、モーガンヒル市の大人たちはとてもフレンドリーで親切でした。ただ、子どもたちはおとなしく、僕たち日本人と変わらないように見えました。大人になるにつれてコミュニケーションの力が高くなるのかなと思いました。その境目はどの辺になるのか不思議で興味を持ちました。

3日目は遊園地に行きました。アメリカでは僕たち日本人が外国人なのだと意識していたが、周りには様々な人種の人たちがいて、何も気にしなくていいのだと感じました。日本に住む外国人が差別を受けたりすると聞いたことがあるけれども、アメリカではどこの国の出身でも誰も気にしないで接してくれるおおらかさがあります。アメリカでは家もショッピングモールも企業も全て敷地が広くて、食べ物もボリュームも多い。そして、時間が日本よりもゆっくり流れているような気がしました。そんな風土に住んでいる人の性格を作っているのかもしれないと思いました。

毎日、観光やレセプションが多く、たくさん楽しませてもらいました。中学校や高校も訪問しました。ただ、生徒と触れ合う機会があまりなかったことがとても残念でした。もっとモーガンヒル市の中学生たちと向き合ってじっくり話せる時間がほしかったです。

唯一話ができたのはステイ先のデイビッドでした。僕が知りたいと思っていた『国や言葉や文化の違う中学生がどんなことを考えて、どんな夢を持っているのか』について、マミーの通訳を通じて話し合いました。「夢は何?」「スティックファイト(1)かスノーボードのチャンピオンだよ。」「おー、すごい大きな夢だね。じゃあ、その夢は壊れないと思う?」「うん、叶えたいと思っていれば、壊れたり、なくなったりしないと思うよ。」「じゃあ、もし目の前にサラリーマンになる道とスティックファイトとスノーボードを続けられるけどチャンピオンになれるかわからない道があったとしたら、どっちを選ぶかな。」「サラリーマンになる道。」とデイビッドを即答した。「なぜ?」と質問すると「何よりも家族を養うことが大切だから。」と答えが返ってきました。僕はその返事に驚いて、それ以上にマミーがびっくりしていました。アメリカの学校教育は夢を追い続けることを応援してあげる仕組みになっています。音楽が好きなら音楽の道へ、スポーツが好きならスポーツの道へ、

専門の大学へ導く教育がされていると聞きました。だからデイビッドが現実的な道を選んだことが意外に感じたのです。夢を持ち続けることはとても大事なことだけれども、もし他の道を歩まなければいけなくなったときに困らないように勉強することも大切だと思いました。

僕のスエイ先のパピーとマミー、デイビッドとロイスはとても仲がよかったです。アメリカは子どもだけで外に遊びに出ることはほとんどなくて、必ず保護者が一緒でした。きっと日本ではマザコンと言われてしまうかもしれない。子どもの躰については厳しい家もそうでない家もあって、各家庭によって違うのは日本と同じでした。

最後の晩、僕はマミーと夜中までいろいろ話をしました。宗教、民族、歴史、アメリカと日本の違い。マミーは敬虔(けいけん)なクリスチャンで自分なりの考えを持った尊敬できる人でした。静かな話し方で人を惹きつける力を持っていました。だから、僕も素直に話を聞けたし、違うと思ったことははっきりと主張することができました。本当にマミーには感謝しています。

僕はモーガンヒル市への派遣団員になることができて良かったと心から思います。国に言葉や文化の違いはあっても同じ人間であることに変わりないと実感できました。モーガンヒル市はとても楽しかったです。またぜひ行きたいと思います。でも、瑞穂に戻ってきたとき、やはり僕の帰るべきところはここなのだと感じました。僕は少しだけ気持ちが強くなって帰ってきました。家族から「啓介もなかなか面白い話ができるようになったね。」と言われたことが、僕が派遣団員としてモーガンヒル市に行って成長した証拠なのだと思います。

(1)...スティックファイトとは、キックボクシング(タイの格闘技)と短い棒を使う格闘技であるエスクリマ(フィリピンの格闘技)を融合させた競技のこと。



ホストファミリーとの写真



送迎パーティーにてハーモニカの発表

坂部早希

「10日 = 永遠モノ」

私がこの瑞穂町青少年国際派遣事業に参加したいと思ったのは、自分の特技というのが無かったことに気付いたからです。3年生になってから私は高校受験に向けて勉強したり、授業態度を良くしたりと普通のことをまず出来るようにやってきました。しかし、正直今までやってきた習い事も途中で投げ出して2年生までは遊んで過ごしてきました。3年生になってこのままではいけないと思い応募をしました。元々英語に興味があり好きな教科ということもあり、募集チラシが配付された日に親に相談をして応募をしました。その後、面接の練習など周りの方々に大変お世話になり、無事合格することが出来ました。協力していただいた方々も一緒に喜んでくれました。

それから事前研修会が何度か行われ、ついにモーガンヒル市に行く日がやってきました。

初めての外国。初めて自分の話す英語をアメリカ人に聞かせる。初めはやっぱり抵抗もありました。抵抗とはいっても、ただ自信が無く発音も悪いし通じなかったらどうしようというマイナス思考が強まってしまったという結果から生じたものでした。しかし、現地の方はどうにか理解しようという気持ちが強く、何とか10日間無事に過ごすことが出来ました。

1～3日目はまず英語に慣れることから始めました。現地の方々は私たちが来る前に日本語を勉強してくれていたようで、私ももっと頑張らなきゃと思いました。その結果、話しかけてくれたことに対しては聞き取ることが出来るようになりました。聞き取りは出来ましたが、それに対しての返事の仕方が曖昧で最後まであやふやな答え方をしてしまいました。でも、その全てが自分なりに頑張った成果です。後悔はしていません。

現地研修は10日間休む暇なくいろいろな所に連れて行ってもらいました。おかげで充実した日々を送ることが出来ました。その中で私はグーグル社見学が一番印象に残っています。これから一生行けそうもないところなのでとても印象に残っています。

この10日間は今まで14年間生きてきた中で一番の思い出になりました。この事業に参加させていただいたおかげで人生観が広がった気がします。そしてもっと英語が好きになり高校生になっても英語をもっと勉強しようと思いました。

来年度、モーガンヒル市の方（青少年）が瑞穂町に来るということで、今からすごく楽しみにしています。私がすごく良くしてもらったので、今度はそれ以上に良くしてあげようと思います。また、行く機会がありましたら絶対に参加したいと思います。

「ホームステイ体験から学んだ事」

モーガンヒル市で10日間ホームステイをして、言葉が通じないことで苦労することが分かりました。しかしだんだんと一緒に遊んだりしていくうちに気持ちに通じるようになり、言葉が通じなくても分かり合えるようになるとすごくうれしさを感じるようにもなりました。

英語にもだんだん慣れてきて、一度使った単語などは普通に使えるようになって英語を使って会話することも可能になりました。

生活面では、日本より親子の仲が良いことが分かりました。どこに行くにもいつも一緒だったり、親が子どもの写真を携帯電話の待ち受けにしていたりと、日本とは全然違うな、と思いました。

また、ホームパーティーをよくすることもわかりました。日本では滅多にしないことをアメリカでは普通にやっていた。近所の人を呼んだり友達をたくさん呼んでやっていることを知りました。これは私も知らなかったの、驚きました。

この10日間、ホームステイをして学んだことがない人はいませんでした。また、最後にまだ残りたいという人が大勢いたので行かなければ良かったなどということを持った人はいなかったと思います。ホームステイにて色々なことを学ぶことができ、色々考えさせられることがあったりして、濃密な夏休みを過ごすことができました。



水族館にて



ホームステイ先にて（写真右側が私です）

中垣佳奈

「健康について」

私のホームステイ先の家庭では、たくさんの肉や野菜など大量に食卓にあがり、甘い飲み物や、日本ではそのまま食べるような果物もシロップ漬けにし、おいしそうに食事をしていました。

まちのハンバーガーショップでは日本の2倍くらいの大きさのハンバーガーが安い値段で売られ、人々はそれを当たり前のように全部食べていました。

新聞等によると、アメリカでは現在1億800万人の成人が、太りすぎまたは肥満だといわれ、糖尿病をはじめとした生活習慣病の蔓延が深刻な社会問題となっています。

そういえば、街中に「妊婦のようなおじさん」「大きなお尻が目立ったおばさん」をよく見かけました。

肥満の大きな原因は、偏った栄養、そしてアメリカは車社会なので、スーパーや友人宅、会社に行くのもほとんど車です。

このため、自己管理できない人は、他の人を管理する資格がないと判断され、「肥満している人、タバコを吸う人は管理職になれない」と厳しい処置もあるそうです。また、アメリカ大統領は、ジョギングや、トレーニングによって、常に体調に気を配っているため、歴代の大統領に太っている人はいません。(そういえば、センターを見学したとき、トレーニングルームに機器が並び、大勢の人が体を動かしている姿を見かけました。)

肥満に関する遺伝子は、アメリカ人も日本人も差が無いと言われているそうです。大きな違いは食習慣、生活習慣の違いであり、これらがアメリカ型になれば、それこそスーパーサイズな日本人も数多く誕生するであろうと言われています。

日本においても例外ではなく、生活習慣病のもとになる肥満が増えれば医療費が増え、高齢化社会や不況などにより日本の経済に大きな影響を与えていると言われています。肥満対策は、今後の日本における重要なテーマになると思います。

私も甘いものやファーストフードは嫌いではありませんが、「改めて健康について気をつけなければいけない」と思い、良い習慣・癖をつけることが大事だと感じました。

「ホームステイで感じたこと」

私は英語がとっても苦手で少しでも克服したいと思い、また、アメリカはどんなところだろうと少し興味を持ちこの海外派遣に参加しました。

最初はとても不安で楽しんで行けるのか。きちんと英語が話せるのか。と後ろ向きなことばかり考えていました。事前研修では日常での会話、自己紹介など英会話の勉強がありましたが、もっともっと勉強しようと思っているうちに、出発となってしまいました。

私のホストファミリーはロリー、トーリ、デイビット、エリー、ニコの5人家族です。事前にメールを交換して写真などを送ってもらっていたので、コミュニティーセンターで出迎えられたときでも、初めて会う気がしませんでした。

初日の午後、ホストファミリーとの自由時間があり、私はトーリと半日遊びました。言葉がなかなか聞き取れずとっても大変な思いをしました。日本ではこんなことはなかなか体験できません。私は言葉が通じないってこんなに苦労するんだな・・・とつくづく思いました。しかし、テレビゲームや紙風船をしていくうちに会話がなくても、身振り手振りで何とかトーリに言いたいことが伝わり、気持ちが伝わったときすごく嬉しかったです。英語を一回使うとだんだん積極的に話せるようになり、コミュニケーションがとれるようになって楽しくなっていました。

こんなに短い時間のなかで仲良くなれると思ってなかった私は、びっくりと嬉しい気持ちでいっぱいでした。折り紙と一緒に鶴を折ると興味を示し、「終わりにしよう」と声をかけるまで数時間折っていました。日本の遊びでこんなに楽しんでもらえるなんて思っていなかったので教えてあげられて良かったと思っています。

トーリの家の中でびっくりしたのは、日本のように玄関で靴を脱ぐことをせず、靴のままリビングなどを歩きまわっていたことです。

後で聞いた話ですがアメリカでは、家の中で靴を脱ぐ習慣がないということです。私は学校や買い物から帰ったときに靴を脱ぐと、とてもリラックスできます。最近では日本のように靴を脱ぐ家庭もアメリカでは増えてきているようですが、基本的には靴を脱ぐ習慣はありません。道路を歩くと確実に汚れ、真っ白い新しい靴で10歩歩くともう靴の裏は黒くなる。そんな靴で歩いた場所へ座るということは町で道路に座ると同じことに思えます。アメリカと日本の違いはたくさんありますが、私の思ったことは、アメリカは

自由の国と呼ばれているようにとてもフレンドリーで個性を尊重し、おおらかな考えをしていると思います。そして日本は几帳面であり、歴史を大事にし、基本に忠実であると思いました。このように日米間の文化の違いについて考えることで、普段の自分の行動においてもアメリカを見習ったり、いろんな考え方を発見できるいい機会だと思いました。

また、アメリカはボランティア精神がとても強いことがわかりました。ホストファミリーの方はお金も何一つ支給されていないにもかかわらず私たちのために部屋を提供し、ご飯をつくってくれたり・・・。他のお店にも連れて行ってくれ、せっかくの休みを私たちのために使ってくれました。

日本ではボランティアに参加している人がとても少なく、私の周りにも協力している人があまりいません。アメリカの方々は市のため、みんなのために、と進んでボランティア活動をしているのが見ていてとてもわかりました。私は学校の部活動などがあり、今までボランティア活動に参加したことがあまりありませんが、改めてボランティア活動の大切さを知り、これから積極的に参加しなければと感じました。

今回の研修で、異文化に触れ、たくさんの人と出会いふれあうことができたことを、とても嬉しく思います。そして、ホームステイを通して私はコミュニケーションをとることの素晴らしさと、喜びを知りました。これからもっと英語を勉強して、たくさんの人と英語で会話できるようになりたい、そんな目標もできました。来年の夏までに絶対英語力をみがきたいです。来年はモーガンヒルから瑞穂町に訪問すると聞いているからです。そのときは、今回よりも、もっと話ができるように頑張りたいと思っています。

このような機会を与えてくださった皆さん本当にありがとうございました。



事前研修（お土産作り）右側が私です



右から二番目が私です

中野朝日

「アメリカに行ってみて感じた事」

アメリカに行く前、私は語学と文化や生活の違いを学んで一つでも多く学んだことを生かす。ということが課題でした。

アメリカに行って一日目、Leiser Kimberly さんのお宅へ行きました。家は日本と違い靴で入り日本のような玄関がありませんでした。まず、家からもう日本とは違いました。Kimberly さんのお宅には Jasmine という13歳の女の子、Samantha という9歳の女の子の二人がいました。二人とも遊ぶのが大好きで Jasmine は泳ぐのが大好きで毎日のように家のプールで泳いでいました。Samantha はピンポンが大好きで毎日「ピンポン、ピンポン、Let's play ピンポン。」とって私達の自由時間もずっとピンポンで遊びました。楽しかったけど、ちょっと疲れしました。お母さんの Kimberly さんはとても面白く日本語で一生懸命話そうとしてくれました。お父さんの David さんはとてもやさしくて仕事が休みの日はいつも何処かへ連れて行ってくれました。私は Kimberly さんの家族が大好きです。

Kimberly さんのお宅には、トランポリンや遊具、プールがあってとても広いお家でした。一日目からプールに入って、プール好きの私にはとても嬉しかったです。私達が泊まった部屋もベッドが二つあってクローゼットとたんすを好きに使っていいと言われましたし、トイレとシャワー室もちゃんとありました。何一つ不自由のない家でした。食事もいつも豪華で朝ごはんはマフィンとシリアルと食パンの中から好きなものを食べてもいいし、夜ごはんは、魚が食べたいといったらカリフォルニアロールや白身魚のレモンムニエルを作ってくれたり、とても美味しかったです。食事のときも会話をしながら食事を楽しみました。日本では会話をしながらご飯を食べることをあまりせずに、子供と親のコミュニケーションが取れていないけれど、アメリカでは食事の会話でコミュニケーションが取れていていいことだなと思いました。一日があっという間に過ぎてこれからは楽しみだな、と思いました。

私が印象に残っていることがあります。いろんなことが体験できて楽しかったのですが、まずはモーガンヒルがとてもお金持ちだと思いました。なぜそう思うのかというと、モーガンヒル市の図書館へ行った時のことです。私は本を読むのがとても好きだったのでとても楽しみにしていました。私が思っていた図書館は、瑞穂のような古くて三階建ての図書館を想像していた

のですが、一年前に出来た図書館でとてもハイテクだったのです。本の仕分けはコンピュータが自動でやってくれるので図書館の人は仕分けられた本を本棚に戻すだけの作業ですし、借りるのは自分でレジのような機械で本のバーコードを読み取るだけで、返すのは自分で持ってきてポストのような箱に入れるだけでした。私が考えていた図書館とまったく違うのでとても驚きました。けれど驚くことはこれだけではありませんでした。日本の本が置いてあったり、図書館なのに DVD や日本や他の国の漫画がタダで借りられるのです。驚くより呆然としていました。岩本教育長が説明をしてくれた図書館の人に「この図書館はいくら位で出来たのですか？」と聞いたら、図書館の人が「約19億です。」とってその言葉にも驚きましたが、岩本教育長の「新しく出来た箱根ヶ崎の駅の資金と一緒に。」といった言葉にも驚きました。私は箱根ヶ崎の駅とこの図書館が同じ値段だと考えたら、それだけ図書館にお金をかけているんだと思いました。これが私が印象に残っていることの一つ目です。



講習会にて



壮行会にて（中央が私です）

あともう一つ印象に残っていることはサンフランシスコや水族館、グーグル社などいろいろな所に連れて行ってもらいましたが、そういうことをするボランティア精神が日本よりはるかに凄いと分かったことが一番の収穫だと思います。皆さん私達を泊めてくださっているのもボランティアで、尽くされっぱなしで、今度日本に来たときにモーガンヒル市の皆さんがとても尽くしてくださった以上に私は出来るかな？とってしまいました。なので私はモーガンヒル市の人から学んだボランティア精神を実生活で生かしたいと思いました。

今回私の課題は、最初でも述べたように、語学や生活と文化の違いを学び

少しでも多く学んだことを実生活で生かしたい、というのが課題でした。生活と文化の違いでは、まず家の構造が違うし、皆でしゃべりながらご飯を取っていました。日本ではあまり親と一緒にご飯を食べて話すという習慣がないと思うので、ここを生かせたらいいなと思いました。あとボランティア精神がとても凄いので、自分でもボランティアに積極的に取り組もうと思いました。語学ではなるべく英語で話そうとしたことで、少し多くの単語を覚えられたと思います。なので、アメリカに行く前に立てた課題の半分、生活と文化の違いや語学をしっかりと学べたと思うので、あとは実生活に生かせるよう頑張りたいです。

中川知美

出発の日。親たちに見送られてすごく悲しくなりました。私は派遣団員唯一の2年生であり、すごく不安でキャンセルしようと思ったことが何度かありました。でもせっかく合格したし、合格しなかった人たちの分も頑張ろうと思い、今、車に乗り込みました・・・。

成田空港に着きました。空港では飛行機に乗り込むまでいろんな審査を行いました。その中で一番大変だった審査は入国審査です。入国管理官が英語をペラペラ話しだし私が固まっていると入国管理官が英語で「英語は話せますか？」と聞いてきたので私は迷わず「no!」と答えました。その後もいろいろ質問され全て「yes!」や「no!」で答えたら何とか通過できました。

サンフランシスコ空港に着き外に出てみると、「涼しい」。これがアメリカでの第一声です。日本みたいにジメジメしていなくてカラッと晴れています。さらにセミの声が全く聞こえないのです。私はすごくわくわくしてかなりモーガンヒルが楽しみにになりました。バスに乗りアメリカの景色を楽しみながらあっという間に到着。モーガンヒル市は山々が広がっていて、まるでそれはモーガンヒル市のマークのようでした。

さらに一件一件の家がとても大きいのです。まるでこの景色は絵に描いたようにとてもきれいです。

モーガンヒル市のコミュニティーセンターに着くとこれからお世話になるホストファミリーの方々が出ていました。私がこれからお世話になるホストファミリーは四人家族です。お父さんのデイビット。お母さんのキンバリー。長女で私と同じ年のジャスミン。次女で小学四年生のサマンサです。

着いてすぐそれぞれの家に分かれましました。あさひ先輩とわくわくしながら車に乗り込み何分かたったら家に着きました。車から出るとそこにはものすごく大きな家が建っていました。ガレージの外にはバスケットゴールがあり中には卓球台もありました。家の中には部屋がいくつもありバスルームも4つありました。キッチンもとても広く、何と庭にはプールやトランポリンやアスレチックがありました。これこそまさに、very big house!! でした。

今日はそんな家にいとこ達が来てパーティーがあるというのです。その前に何かやりたいことある?とキンバリーさんに聞かれたので私とあさひ先輩は迷わず「プールに入りたい!」と答えました。水着に着替えて庭に出ると、

そこには一般の家にはありえないくらいの広さのプールがありました。さらにプールの隅には温かいお湯が流れるジャグジーがありました。とても裕福な家だと感じました。かなづちな私は少し抵抗がありましたが実際に入ってみると「なんだ意外と浅いじゃん。」と思いながらうきわの上に乗って奥まで向かいました。一番奥について、うきわからおりると何と足がつかないのです。私は目の前が真っ白になり、必死に犬かきをするがどんどん沈んで一瞬三途の川が見えました。気がつくときあさひ先輩がうきわを持って助けてくれました。

そんなこんなで、時間はあっという間に過ぎ、いとこ達が来てパーティーが始まりました。いとこ達とまたプールで遊んだりしてすごく楽しかったです。この日の夜は疲れて早く寝てしまいました。

次の日の朝、キンバリーさんの「おはよう」のあいさつで目を覚ましました。キッチンに行くとマフィンや新鮮な果物が並んでいて、日本では本当に考えられないようなものばかりでした。

午前中は、友達の家に行き、またパーティーをしました。さらに夜にはボウリングパーティーをしました。楽しかったです。でも毎日パーティーで少し疲れ気味です。そして、私たちは大きなミスをしてしまいました。それはその日の夜のこと……。キンバリーさんが親に電話したいかと聞いてきたので、私とあさひ先輩はかなり嬉しがり幸せな気分になりました。そしてある感情がうまれました。それはホームシックです。その日から私とあさひ先輩は毎日のようにホームシックにかかりました。そしてホームシックの百人一首までも作りあげたのです!!!

3日目、今日は遊園地に行きました。私たちが行ったアメリカの遊園地は日本より乗り物があまり怖くありませんでした。だからすごくおもしろかったです。

5日目、今日は世界のグーグル社に行きました。グーグル社で働いている従業員はみなエリートばかりでした。さらにとってもおいしそうなレストランも従業員は無料で使えるカフェが何個もありました。さらに勤務時間の20%は好きなことをやっていいということで、ジムがあったりカフェがあったりするのです。本当、グーグル社の人はいいですね……。

6日目、今日はゴールデン・ゲート・ブリッジに行きました。かなり大きくて景色もサイコーでした！しかしあまりにも寒すぎでした。

7日目、今日はキンバリーさん宅にみんなが集まりプールパーティーをしました。かなづちな私はグラッチェンさんとずっとしゃべっていました。グ

ラッチェンさんとは、他の先輩がホームステイしている家のお母さんです。そのお母さんはR o c kが好きですごく話が合いました。さらに将来私がミュージシャンになったら私のC Dを買ってくれるというのです！（笑）そしてグラッチェンさんは私の best friend になりました。

8日目、水族館にいきました。

9日目、今日でここで過ごすのも最後です。今日は映画を見たり遊んだり最後の日をとことん楽しみました。めずらしい魚がいました。とてもおもしろかったです。最終日、みんなと別れるのが嫌で私は大泣きしました。ここで学んだことは一生忘れません。

そして私たちはバスに乗り空港へ向かいました・・・。



写真左側が私です



ゴールデン・ゲート・ブリッジにて

西村佳恵

私の学校では、他の人のために何かをする機会がたくさんあります。

例えば、毎月生徒ひとりから100円を集め、学校に行きたいけれどお金が無いフィリピンの子どもたちにとって、学校に行けるように支援をしています。

私は、そうした活動を通じて奉仕の精神を学び、他人のために何かをすることは素晴らしいことであると感じていました。

顔は分からないけれど、もう一人の友のために、少しでも多く何かをしたいという気持ちにさせられます。アメリカはボランティアが盛んなようなので、モーガンヒル市に行ってどのようなものか知りたと思いました。

モーガンヒル市への派遣が決まった時、楽しみである反面、不安もありました。でも、ホストファミリーが決まり、電子メールでのやりとりをしているうちにその悩みも、取り越し苦労だと気づきました。

渡米後、現地の方々はとてもフレンドリーに接してくださり、初めて会った私にも、たくさん話しかけてくださいました。

ホストファミリーとの生活当初は、会話や生の英語に圧倒されていました。しかし生活様式や現地に慣れ、英語を聞く耳も慣れてきました。最初ははずかしがっていましたが話してみようと思い、会話をしていると会話が弾むようになりました。

私がお世話になったホストファミリーの Ankiel 家は五人家族で、男の子が二人と女の子がいました。

Ankiel 家のお父さんの Rick と女の子の Emily は、「ありがとう」や「行きましょう」など慣れない日本語を私のために覚えて毎日使ってくれました。私が手土産として持って行った漢字のプリント T シャツを弟の Ben がうれしそうに着てくれました。

また、箸を使って日本食をおいしそうに食べるなど、私のホストファミリーは日本が大好きなようでした。

日本のお笑い番組も好んで見ており、驚きました。

お母さんの Gretchen さんは歩くのが好きで、夕方涼しくなってきたから、よく私を散歩に連れって行ってくれました。散歩の途中では丘のてっぺんにある建て売りの家を見かけました。それはまるでお城のようで、「一度住んでみたいね」とお母さんと話しました。

私と年齢の近い娘の Emily はホームステイ中、ずっと一緒に行動していま

した。色々な話をしたり、外出自由時にはショッピングモールで一緒に買い物をしたり、音楽を聴いたりしました。日本のポップミュージックが好きになり、よく聴くようになったそうです。国を問わず、同じ年頃の子は好きな事が似ているのだと思いました。

グーグル社の見学後、「グーグル社で一緒に働きたいね。」と Emily と話をしました。どこに行っても会話は途絶えませんでした。毎日がとてもかけがえのないもので、ずっと話していたい、まだアメリカにいたいと思いながらアメリカをたちました。

最後に、Gretchen さんが「あなたの英語は上手でした。もしアメリカに来ることがあったら私の家に来てね。いつでも歓迎するわ。」と言ってくださり、とても嬉しく思いました。私は、またいつか会える日を楽しみに、英語の勉強の励みとしています。



モーガンヒルの仲間と



ホストファミリーと一緒に

今回のホームステイは、すべてモーガンヒルの皆さんのボランティアで成り立ち、住民から募金を募るなどして、暖かく迎えてくださいました。現地の皆さんは、どうしたら私たちを喜ばせられるか、楽しんでくれるか、ずっと考えてくださいました。そのお陰で私たちは、様々な素晴らしい体験をすることができました。

ですから、ボランティアはする人も、される人も幸せになれるものだと思います。私は今回このホームステイで奉仕の精神や生活について視野が広がりました。

帰国後、学校からの帰宅途中に、外国の女性に話しかけられました。彼女はこれから、どの電車に乗るべきなのかわからないようでした。話を聞くと、私と目的地の方向が一緒だったので、駅まで彼女を案内しまし

た。駅に着いた時に、その女性が私の手を取り、何度も「Thank you.」と言ってくださり、私もほっとしました。

このことから、誰かを助けるというのは、自分にとっても良いことであるし、成長させてもらえる事であると感じました。そして、困っている人がいたら、これからも、声を掛けてみたり、学校でのボランティアなどにも積極的に参加していこうと思いました。

13 終わりに

瑞穂町では平成18年7月3日に米国カリフォルニア州モーガンヒル市と姉妹都市提携の調印を行い、これまでに様々な国際交流事業を実施してきました。これまでの事業は、主に大人を対象とした交流事業でしたが、今回は瑞穂町の将来を担う若者を対象に、姉妹都市であるモーガンヒル市との交流事業を実施することとなりました。

今回の中学生派遣事業は瑞穂町として初めての取り組みでした。選ばれた6名の派遣中学生は瑞穂町の中学生代表としての自信と自覚を持つことはもとより、現地研修に向けての目的意識を持って取り組んでいました。

さらに、一人一人が瑞穂町の友好親善大使としての役割をもち、滞在先で出会った人たちと積極的に関わり、様々な交流を通して、モーガンヒル市の方々と友好を深めることができました。

また、本事業は単なる海外派遣研修ではなく、ホストファミリー宅へホームステイする事業でした。派遣中学生はそれぞれのホームステイ先で日本では体験できない貴重な財産を手にしたものと思います。

今回の派遣事業を通して、瑞穂町のよさを再認識することはもとより、自己の視野を広げ、若い世代の視点から、自己の生き方や今後の国際交流等のあり方などについて考える機会となったことでしょう。

来年度には、モーガンヒル市から同年代の青少年が瑞穂町に訪町する予定です。ホストファミリーとして又はボランティアとして事業に携わり、今後の瑞穂町の中核を成す存在になることを願っています。

瑞穂町教育委員会

= 参考資料 =

- ・ 日系アメリカ人に関する勉強会 資料
(P 3 5 ~ P 3 8)
- ・ 平成 2 0 年度 瑞穂町青少年国際派遣事業派遣団員募集要項
(P 3 9 ~ P 4 0)

14 参考資料

【日系アメリカ人に関する勉強会 資料】

モーガンヒルにおける日系アメリカ人の歴史

カリフォルニアの多くの地域同様、少数の日本人移住者（1世と呼ばれる20世紀初めに最初にアメリカに渡ってきた1世代目）が農場を経営するため、モーガンヒルに移民してきました。その多くは、広島県や熊本県から来ました。不運にも、人種差別が生活の中にある状態だったので、カリフォルニアでの生活は簡単なものではありませんでした。例えば、日本人移住者はアメリカ市民になることはできませんでした。その結果、自分たちの土地を持てなかったのです。1924年まで、アメリカ議会は全ての日本人移住者にアメリカ市民になることを禁じていました。

1930年代後半までそれら差別習慣があったにもかかわらず、彼らの献身的で、きつい労働に耐えた10年間で身を結び、ようやく彼ら自身や彼らの子ども（2世と呼ばれる2世代目）に、以前よりは良いアメリカ式生活をもたらしたのです。

不運にも、彼らの生活は、日本が真珠湾を攻撃した際、かなり妨害されました。

1942年のルーズベルト大統領命令9066号は、モーガンヒル及び全ての西部の州から1世、2世が消えてしまう結果となりました。彼ら（アメリカで生まれた日系アメリカ人の内の大多数、合計12万人）は戦争再配置権限によって作られた大規模な10個の収容施設に拘留されました。彼らは人種によって別々の収容所に拘束されました。多くの者が、1ヶ月弱家を離れ、農場や仕事の放棄を強いられていたため、全て失う結果となりました。拘留は1945年まで続きました。

開放されたときには、ほとんどの者が、お金と土地を持っていませんでした。ハナモト一家を含む多くの家族は、どこかよその土地で生活を始めようとした後、最終的にモーガンヒルに定住しました。“ドリスコール”と呼ばれていた栽培者にイチゴを物納する契約で土地を耕作する仕事は、新しい生活を始めることに希望を抱いていた彼らにとって数多く成功した投機的事業のうちの1つとなりました。日本人労働者は拘束される以前からひたむきで一生懸命働くことで評判が良かったので、ドリスコールは彼らを欲しがりました。

た。その結果、多くの者がドリスコールのために働き、新しい生活を始めることに成功しました。日系アメリカ人社会は、収容所から帰還した者たちに、再定住するために必要な好機を与えてくれたドリスコール一族にとっても感謝しています。

イチゴ物納契約における土地耕作時代の後、1世、2世のうちのいくつかの世代は自分たち自身の土地を持ち始めようと試みました。そして、12年後、ハナモト一家はキウイ農場を買うことができました。他の人々も、花の栽培または養殖場や農場の経営で見事に大きく成長していきました。

1950年代後半から1960年代前半に、多くの1世が現役を引退し、2世が仕事を引き継ぎました。1世と2世からの寄付金で、サン・ノゼ仏教徒教会の一部になった建物の建築を1967年に可能にしました。現在それはモーガンヒル仏教徒センターとして知られています。

21世紀の今、とても沢山の苦痛を受け、想像できない程の苦難を頑張り抜いた2世は現在一線を退いています。3世（3世代目）と4世（4世代目）は2世が退いた後の指導者の地位に付いています。

日系アメリカ人の重大な歴史

1942年アメリカに日本人が移住しはじめていた頃は、非常に珍しいことが起こっていました。日本語を話せる能力を持った2世の多くは、第2次世界大戦中に、尋問者、通訳者、翻訳者として仕えるために、軍隊に新兵として入隊させられました。最終的には戦争中と日本の再建期それぞれを含めて6,000人以上がモーガンヒルから（軍の情報組織に）仕えました。さらに、多くの2世が第442連合戦闘部隊で知られる人種差別を受けていた部隊の一部としてヨーロッパ戦地に収容施設から直接兵に志願しました。1943年から1945年まで、20,000人以上の2世が、モーガンヒルおよびそれぞれの地から仕えました。第442連合戦闘部隊はアメリカ軍の歴史の中でその規模、軍務の期間において、もっとも名誉ある部隊となりました。

SUYENO INADA (1世)

彼女は1901年日本の熊本県に生まれました。先祖彼女は1920年にアメリカに渡り、ヨシタロウと結婚しました。彼女たちは1942年4月に

ジェロム・アーカンサスに拘留させられるため土地を引き渡すまで、家族で農場を経営し、家畜を飼育していました。

彼女たちの家は他の家族に100ドルで売りに出され、作物を含む他の全ての財産を放棄し、失いました。彼女はアメリカ合衆国によって法外な扱いを受けたことに抗議しました。

彼女がとても長生きをしたのは、よく働き、苦難な時代を前向きな気持ちで乗り越えたからだと言えます。

1954年11月11日、彼女がアメリカ市民権を手に入れたとき、彼女はこう言いました。

「ようやく落ち着くことができる。」と。

彼女は2005年に生涯を終えました。

MARY YOSHIKAWA (2世)

彼女は、第2次世界大戦中、また再定住の時代に、彼女の両親が受けていた自由消失から経済荒廃までの経験を語りました。

彼女の夫、ヘンリーは1944年に第442連合戦闘部隊に徴兵されました。

彼女は、地域社会に関わることの重要性と、この重大な過ちを歴史上繰り返してはならないということを力説しました。

PHILLIP KOBAYASHI (1世)

彼は、1904年に和歌山県に生まれました。彼は1915年に母と妹と共にアメリカに渡り、1928年にレドンド・アメリカン・ハイスクールを卒業しました。彼はイチゴを主とした物納契約耕作者として働きました。1932年に彼は50年以上連れ添った奥さん Sakaye (サカエ)さんと結婚するため一度日本へ行きました。その後、彼は南カリフォルニアの生産部門を管理し、所有していた土地に落ち着きました。

1942年に、彼の家族はサンタ・アナ・アッセンブリー・ポイントに移転させられ、結局最後には、アリゾナ州のポストン・リロケーション・センターに移転させられました。そこでの生活は苦しく、気候も厳しいものでした。

収容施設にいる間、彼は、時間記録係、皿洗い、警察官や建築管理と、様々

な仕事に就きました。

1945年に収容施設から開放された時、彼と彼の家族は、サン・ノゼに渡り、住宅供給が非常に不足していたため、仏教徒教会に隣接した簡易ホテルに住んでいました。彼はもう40歳を超えていたため、できる仕事が制限されていました。

栽培者や運送業者として働いた後、一家はモーガンヒルに移り、サン・マーチンの大農場へ行き、そこで彼は15エーカーもの土地を購入し、農場経営をしました。

彼は亡くなるまでに、日本語と英語に加え、スペイン語も上手に話せるようになっていました。

1975年に彼が一線から退いた時に、彼と彼の奥さん Sakaye (サカエ)さんは、ようやく休暇を取ることができ、日本や様々な国へ旅行に行くことができました。

彼が長生きできたのは、お酒もたばこもせず、適量な食事を摂ることによって精神的にも身体的にも健康でいつづけられたからだと言えます。運動とウォーキングをいつもしていたことも長生きの秘訣でした。

彼からの助言として・・・

健康でいてください。親を大切にしてください。まっすぐな人生の道を歩んでください。

彼は2007年102歳でこの世を去りました。

平成20年度 瑞穂町青少年国際派遣事業派遣団員募集要項

- 1 対 象 瑞穂町内在住あるいは町立中学校に在籍する生徒とします。
- 2 派遣人員 派遣する人員は、中学生6名とします。
- 3 応募資格 (1) 心身ともに健康で、研修意欲及び協調性に富み、本事業の計画に従って規律ある団体行動ができること。
(2) 参加にあたり保護者の承認が得られること。
(3) 研修終了後も瑞穂町の実施する国際交流事業に協力できること。
(4) 町と姉妹都市提携をしているモーガンヒル市青少年の受け入れに原則協力できること。
(5) 派遣に係る研修等の全日程に参加できること。
日程については、「8 全体日程」を参照してください。
- 4 派遣期間 平成20年8月2日(土)～8月12日(火)
- 5 応募方法 (1) 指定の申込書に必要事項を記入し、課題の作文(1,000字程度)を書いて提出してください。
(2) 作文の課題は、「モーガンヒル市の人たちに伝えたい私のまち『瑞穂町』」とします。
(3) 申込書及び作文の提出先は、教育委員会社会教育課(スカイホール2階)とします。
(4) 提出期間は、平成20年4月7日(月)から5月7日(水)とします。
- 6 負担金 50,000円【食事代・保険代・交通費の一部です。】
パスポート取得費用、お土産代、成田空港までの往復交

通運賃等は含みません。

*ただし、応募者の家庭が要保護・準要保護世帯の場合、参加者負担金を減免いたします。

7 選考及び決定 「平成20年度 瑞穂町青少年国際派遣事業派遣団員選考要領」に基づき、書類審査及び作文・面接審査を行い、6名の参加者を決定し、該当者に通知します。

8 全体日程

4月7日	募集開始
5月7日	募集締め切り
6月1日	応募者面接
6月上旬	合格者決定及び決定通知送付
6月14日	第1回事前研修
7月5日	第2回事前研修
7月19日	第3回事前研修
7月26日	第4回事前研修
8月2日	モーガンヒル市派遣【海外研修】
~	
8月12日	
9月上旬	派遣レポート作成【事後研修】
10月19日	こどもフェスティバルにて写真展開催 【事後研修】
11月8日	報告会【事後研修】

日程につきましては、変更の可能性があります。

9 問合せ 瑞穂町教育委員会 教育部 社会教育課 社会教育係
TEL：(042)557-6695
FAX：(042)557-7667

平成20年度 瑞穂町青少年国際派遣事業 報告書

発行日：平成21年 月

編集・発行：瑞穂町教育委員会 教育部 社会教育課 社会教育係
〒190 - 1221

東京都西多摩郡箱根ヶ崎2475番地

電話(042)557-6695(直通)

FAX(042)557-7667